

謎が解けた

札幌市医師会
札幌臨床検査センター 病理診断部

水無瀬 昂

アメリカで病理のレジデントをするために29歳で飛行機に乗ったのが最初で、4年後に帰国して以降はどうも飛行機に乗る気になれませんでした。50歳を過ぎてから、システムなどの情報収集のためカナダ旅行を命じられ、やむなく飛行機に乗りました。その時、飛行機の窓から見た遠くの間山々や雲がきれいなことに感動しました。大気の状態を勉強したら飛行機嫌いも治るかもしれないと思い、気象の勉強を始めました。どうせならと気象予報士試験を受験し、悪戦苦闘の末に三度目の受験で何とか合格しました。

気象予報士会の北海道支部は毎月例会があります。医学とは全く関係のない話が聞けて楽しく、できるだけ参加するようにしています。気象予報士にはいろいろな業種の方がおられますが、その中の一人に旭川気象台の台長を務められて定年となったSさんがおられます。私のようにほとんど無知な人間にも、いろいろなことを分かりやすく説明してください。ある時Sさんが台風の話をしていました。何気なく聞いていた私の耳に突然「今回の台風は洞爺丸台風とほぼ同じ進路をとって…」という文言が飛び込んできました。「私はその時はまだ生まれていなかったのですが…」という言葉も聞こえてきました。その瞬間、小学生の時に経験した洞爺丸台風のことを突然よみがえってきました。

父は教師で、私が小学校に入学した年に校長として白神小学校(今は閉校)に転勤しました。松前町立の白神小学校は高台にありました。谷を挟んで白神村と荒谷村の二つの村があり、それぞれの村から高台の白神小学校に子どもたちが集まってきます。津軽海峡に面した白神は漁業の村です。夏イカ漁の時など、朝早く釣り船が大漁旗を掲げて戻ってくると、その大漁旗の数を見て、子どもたちが今日は手伝いに忙しいから2時間学校を遅らせるとか、午前は休みとか父が判断し、その知らせを高台にある両方の村から見える半鐘に旗を掲げて知らせていたと思います。高台にある小学校は吹きさらしですから、風が強かったです。私が小学校三年生の時に洞爺丸台風がやってきました。風はなんとも表現できないほどの猛烈さで、校長住宅にも風がビュンビュンと吹き込んできました。父は小学校の状況を見に行き不在でしたから、私たちは玄関の戸が吹き飛ばされないように居間の畳を起し、これを玄関の戸に立てかけ、風によって戸が吹き飛ばされないように必死

で押さえていました。風は畳を抑えている私たち子どもを押し戻すように猛烈に吹いていたかと思うと時としてパッと止み、しばらくしてまた猛烈に吹いてくるという繰り返しで、何時間も続いたように思います。そんな折、猛烈な風が止んでヤレヤレと何気なく外を見ると、高台の端に立っている半鐘がふと「音もなく、くずれるように」視界から消えました。崖下に転げ落ちていったのです。猛烈な風が吹いている時ならば理解できるのですが、その時はほとんど無風状態でした。そんな時に倒れたということが私には不思議でした。この時の記憶は折にふれてよみがえり、その都度「無風なのに何故」と思いました。そして、この疑問はその後もずっと解決できない問題として頭に残りました。

Sさんのお話を聞いたときに、突然この疑問がよみがえってきました。気象の権威ですから、予報士会の後の懇親会の時にSさんに疑問を投げかけました。「どうもこの現象が不思議で夢だったのかなと思うこともありますが、こんなことってありますか？」と聞いてみました。「あると思いますよ」とSさんは即座に言われました。その瞬間、あれほど長い間疑問に思っていたことが「そうですよね」と納得できました。そうなのです。同じように見えても地上と上空では風の強さも方向も異なります。このことは雲の動きを見れば分かりますし、気象予報士の勉強の時にも下層と上層の風の流れなど勉強しました。風のない地下街を歩いていて、ある場所で突然強い風が吹きつけてきてビックリしたこともあります。ジャンプ競技で次の選手にゴーサインが出ず、なかなか飛び出せないとか、前の選手は向かい風だったのに次の選手は後ろから押されて距離が伸びないなど、遠くからでは同じように見えても吹く風の強さや方向は分からないという体験や知識が突然結びついたので。ヤレヤレです。40年間もずっと疑問に思っていた謎が瞬時に解けました。

やっと謎が解けたとしばらくは思っていたのですが、そのうちに別な疑問が湧いてきました。あれほど長い間解けずにいた謎が、Sさんが「あると思いますよ」と一言言ったほとんどその瞬間に「そうですよね」と、納得でき、いろいろな知識や体験が瞬時に一つにまとまったと感じたのはなぜなのでしょう。新たな謎です。この謎はいつ解けるのでしょうか。解ける日を楽しみに待ちたいと思います。